

事務事業マネジメントシート

事務事業名		国際交流協会支援事業				本年度担当課	広報ブランド推進課		
						前年度担当課	広報ブランド推進課		
政策体系	基本目標	07	市民参加による自立したまちづくり			新規・継続	継続事業		
	政策	02	多彩な交流と情報活用によるまちづくり			実施計画・一般	一般事業		
	施策	01	国際交流・地域連携の推進			市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	01	相互理解の環境づくりの推進			任意・義務	任意的事業		
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名		実施方法	直営	
	一般	02	01	07	国際交流協会支援事業		事業分類	支援事業	
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	平成4年度 ~			市長公約	該当なし	
根拠法令・条例等								総合戦略	該当なし

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
国際化の時代を迎え、国際情報の収集や人・文化の交流を通して、国際交流の推進を図る。					・市は、国際交流協会に補助金の支出等の支援を行った。 ・国際交流協会は、国際交流に関する催しや外国人のための日本語講座等を開催した。						
					活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					市委託事業数	事業	2	2	2	3	3
					主催事業数	事業	4	13	13	14	15
					外部協力事業数	事業	0	2	2	3	3
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
佐野市国際交流協会					対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					国際交流協会個人会員数	人	179	163	170	175	180
					国際交流協会個人会員数	団体	58	58	60	60	60
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
国際交流協会の円滑な運営と自立に向けた財政の健全化が図られる。					成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					国際交流協会主催の各種事業参加者数	人	目標 3,400 実績 251	1,500	2,000	2,600	3,400
					通訳・翻訳ボランティア数	人	目標 実績 52	54			
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
市内で日本人と外国人が相互に理解し合って暮らせる。					上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					外国人との交流をする市民の割合	%	目標 12 実績 8.2	12	12.5	13	13.5

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
	県支出金	千円	0	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0	0		
	一般財源	千円	5,632	5,632	0	0	0		
	事業費計(A)	千円	5,632	5,632	0	0	0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
					負担金、補助及び	5,632			
人件費	職員従事工数	人工	0	0.12	0	0	0		
	人件費計(B)	千円	0	874	0	0	0		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	5,632	6,506	0	0	0		

B表（事後評価シート）

事務事業名	国際交流協会支援事業	本年度担当課	広報ブランド推進課
		前年度担当課	広報ブランド推進課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成4年、当時の自治省から国際交流のまち推進プロジェクト実施市町村の指定を受け、同年6月市全体として国際交流を促進することを目的として、民間と行政が一体となった市民組織として設立
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	協会の会員減少、会費の減少等により協会の事業運営が滞ることが懸念されている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	国際交流協会の事業を広報紙やWeb媒体などで積極的に周知をすることにより、国際交流協会のPRや活動の支援を行った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
感染症の影響で、事業実施が限定的となった。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
感染症の影響で、実施事業が限定的となった。		市の各種施策との連携を図ることにより、さらに国際交流、国際理解につなげられる。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			事業のやり方改善（成果向上の見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 市の媒体を利用して、国際交流協会の活動の周知を図る。特に、催し物については、積極的に支援する。	市の媒体活用は、ある程度限定的とせざるを得ないが、市の施策と直結しているため理解が得られる。
	中		○		
	小				
	成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名		ランカスター市中学生相互交流事業				本年度担当課	学校教育課	
						前年度担当課	学校教育課	
政策体系	基本目標	07 市民参加による自立したまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 多彩な交流と情報活用によるまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業	
	施策	01 国際交流・地域連携の推進				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01 相互理解の環境づくりの推進				任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	一部委託	
	一般	10	01	02	ランカスター市中学生相互交流事業	事業分類	その他市民に対する事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成4年度 ~			
根拠法令・条例等								

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）													
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）								
姉妹都市のアメリカ合衆国ランカスター市と中学生派遣及び受け入れの相互交流を行う。					コロナウイルス感染症のため中止								
										活動指標		単位	R3年度 (実績)
					派遣人数		人	0	0	0	15	15	
					受入人数		人	0	0	0	15	15	
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）													
市内の中学生					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
市内の中学生生徒数(佐野市立)					人	2,601	2,673	2,655	2,655	2,655			
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）													
市民が姉妹都市のことを知るきっかけとなり、ランカスター市との友好交流が推進される。英語教育の充実を図り、国際的な感覚を身に付ける。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					派遣中学生累計数		人	目標	332	332	347	362	377
								実績	332	332			
					受入中学生累計数		人	目標	400	400	400	415	430
実績	400	400											
④結果（どのような結果に結びつきますか？）													
市内で日本人と外国人が相互に理解し合って暮らせる。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					外国人と交流している市民の割合		%	目標	11.5	12	12.5	13	13.5
								実績	12	10.7			
								目標					
			実績										

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0		1		0		0		0
	人件費計(B)	千円	0		7,287		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		7,287		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	ランカスター市中学生相互交流事業	本年度担当課	学校教育課
		前年度担当課	学校教育課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成4年度、自治省から国際交流のまち推進プロジェクト実施市町村の指定を受け、本市における指針となる「佐野市国際交流のまち推進計画」を策定し、平成6年度にはランカスター市と姉妹都市提携をした。それに先立ち平成5年度より派遣事業を実施している。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	派遣については一般応募としたが、私立や県立中学生の応募が多く、市立の生徒の応募の割合が少ない状況となっている。 海外への渡航にかかる費用はここ数年高騰している。交流中止やオンラインでの交流に切り替える自治体も出てきている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	平成17年度から20年度において、ランカスター市中学生派遣事業に参加した学生にアンケートを実施。海外への視野や関心が高まったといった意見が多く、就職へも影響したといった意見もあった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
受益者負担の適正化	

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			